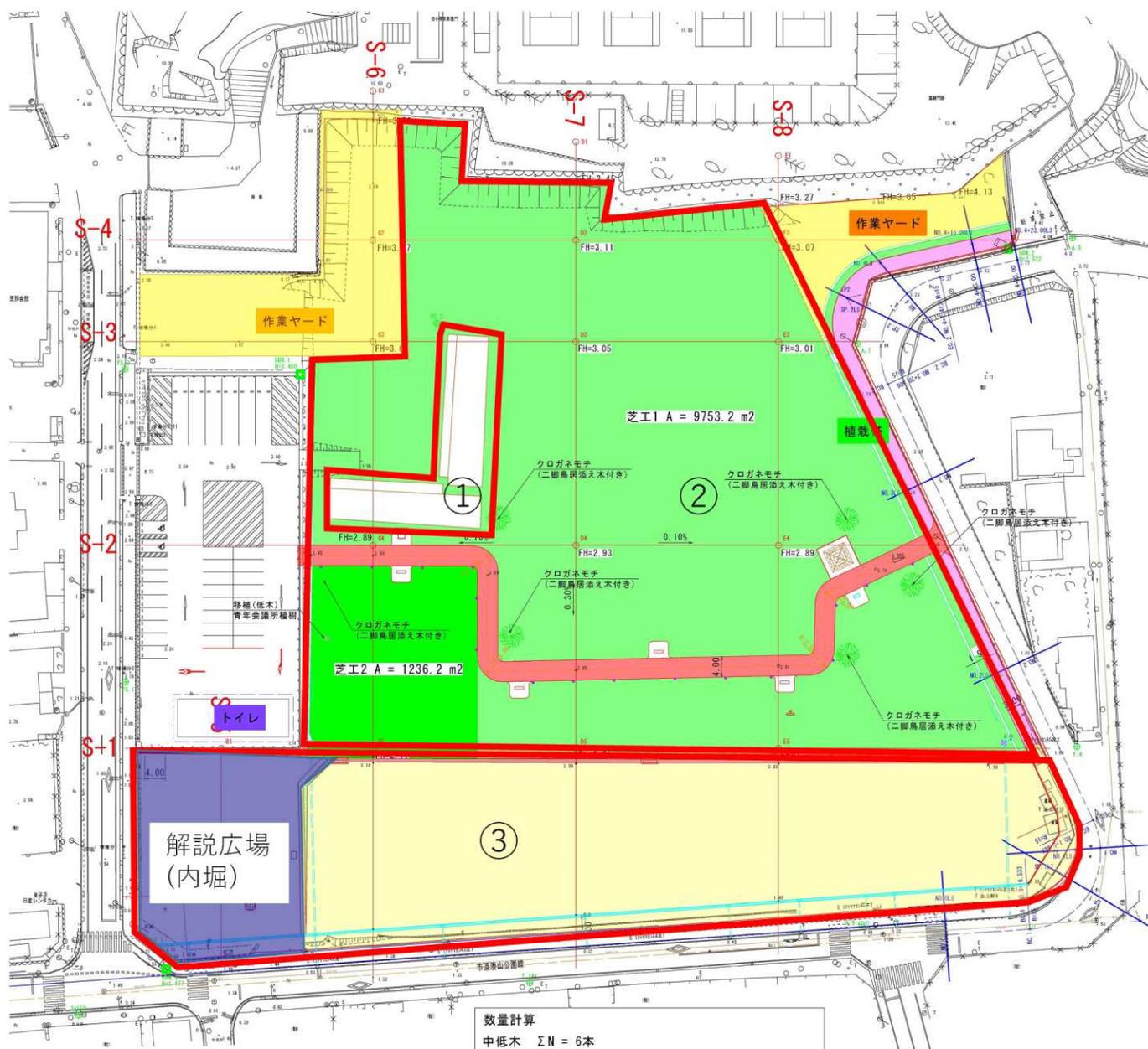
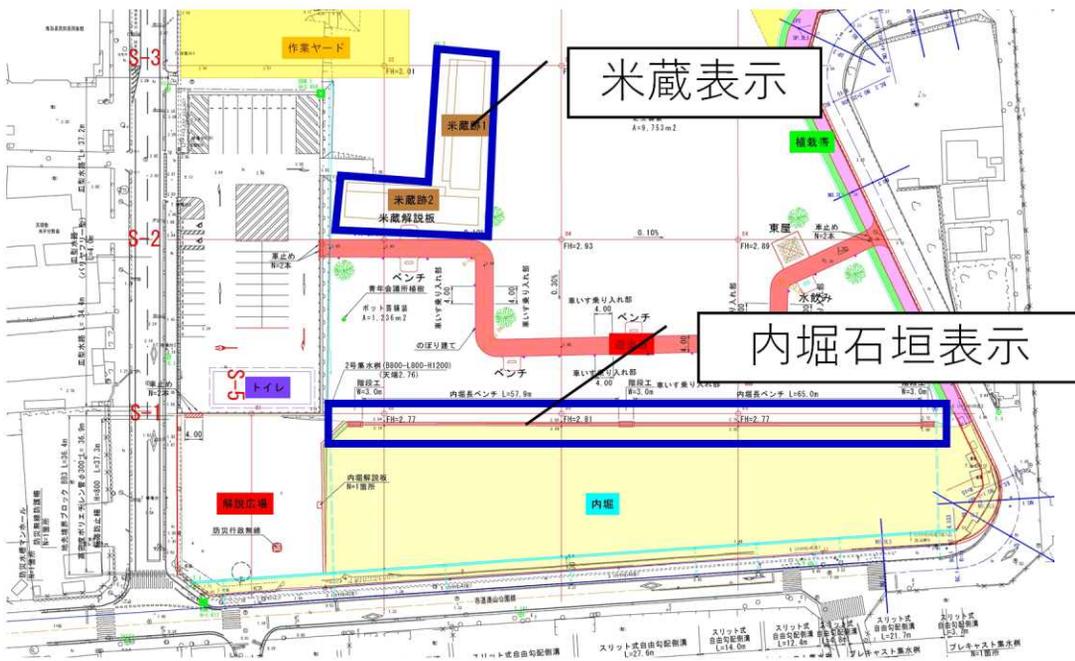




## 整備計画変更点



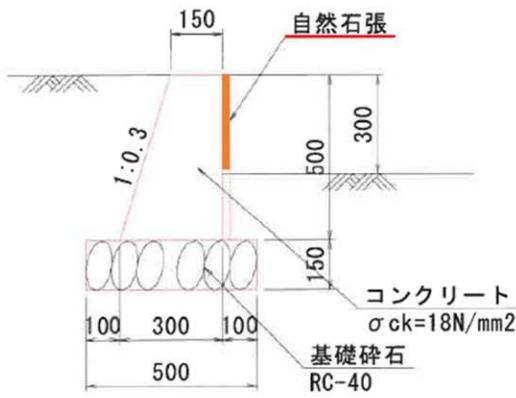
- ①米蔵平面表示をR7からR6へ
  - ②芝張・中低木植樹をR8からR7へ
  - ③園路、内堀舗装をR7からR8へ
- (R6施工予定の解説広場部分(内堀)は路盤までの舗装とし、表層の舗装はR8へ)



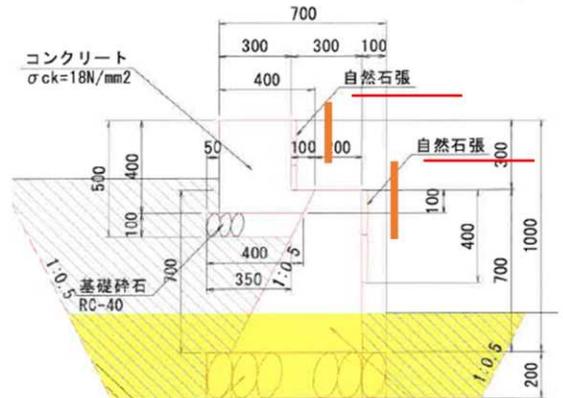
修景施設位置図

内堀壁面・米蔵擁壁の石張

米子城の石垣は流紋岩、安山岩が多く使われているため、青系の色を基本にランダムに並べる。表面加工については、鏡面仕上げにせず、岩の形状をある程度残すようにする。



米蔵囲い擁壁



内堀壁面

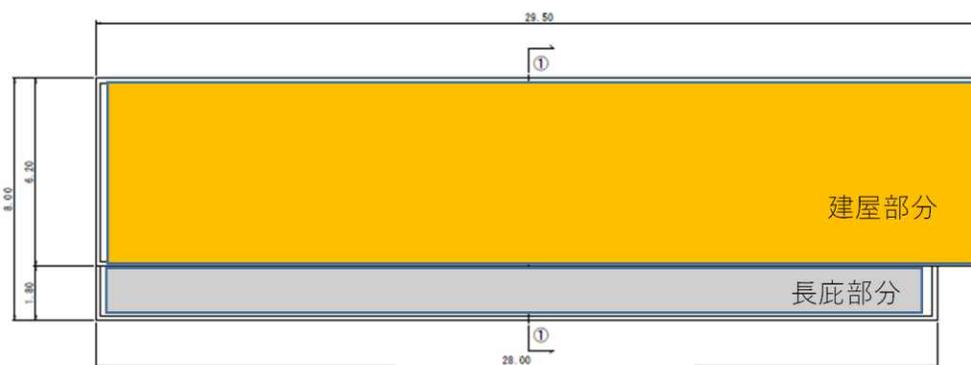


石張形状、色イメージ

**米蔵平面表示**

建屋部分：発掘調査の結果より、黄褐色（黄色・オレンジ）の砂利敷とする。

長庇部分：建屋部分と区別するためグレーの玉石とする。



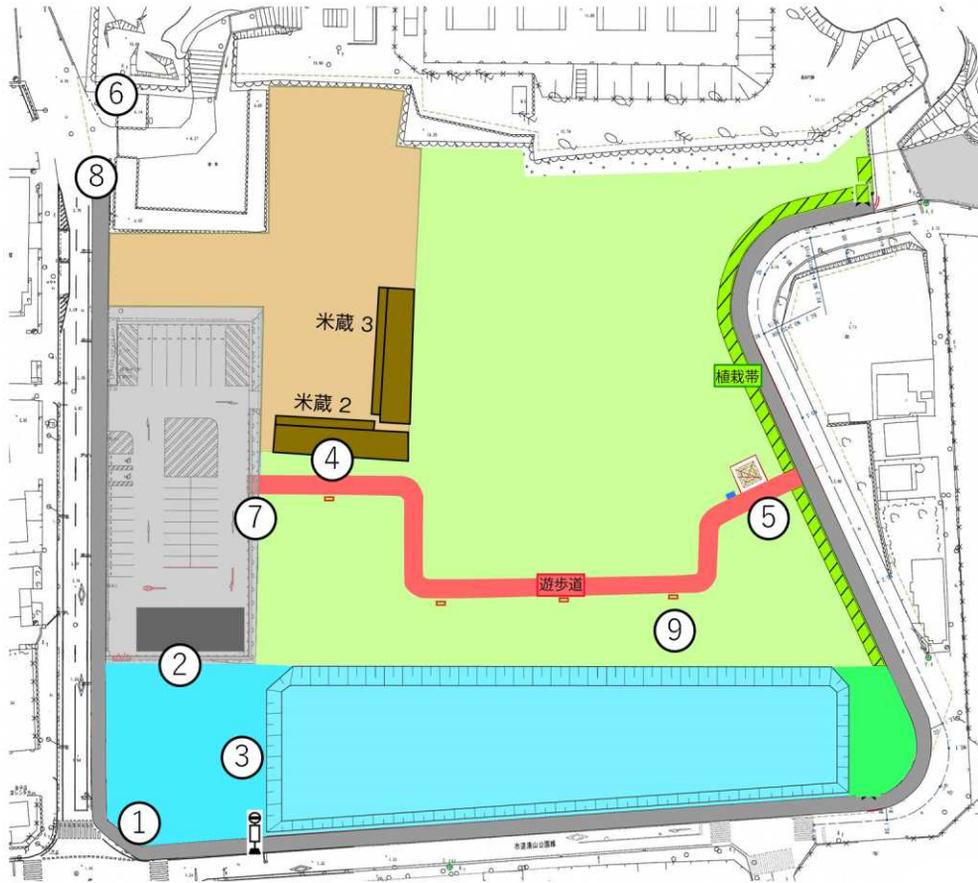
米蔵平面図



建屋部分 敷砂利イメージ



長庇部分 玉石イメージ



no	名称	種類	備考
1	総合案内版	総合案内	既設
2	三の丸解説板	総合案内	
3	内堀解説板	四角型③-2	土台型
4	米蔵解説板	四角型③-2	土台型
5	三の丸名称	標柱	
6	米子城名称	標柱	既設
7	三の丸解説板（簡易）	四角型②	
8	枅形解説板	四角型②	既設
9	湊山球場モニュメント		ホームページを利用

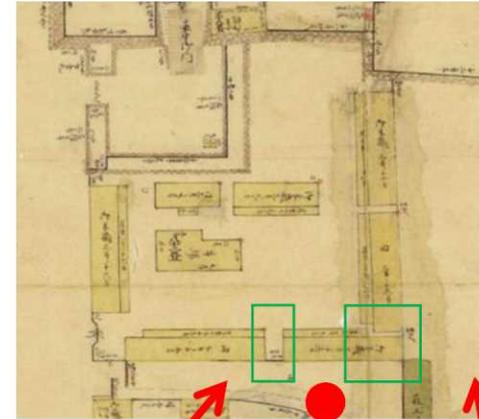
総合案内	四角型②	四角型③-2 土台型	標柱

## 米 蔵 (平面復元表示) 英訳

「米子御城平面図」(江戸末期)によれば、三の丸には中央の斗場(はかりば)※を囲むように6棟の米蔵が建てられていました。建物は3×15間(約6×30m)程で、幅1間(約2m)程の雨よけの長庇(ながひさし)がついています。

令和2年(2020年)の発掘調査の結果、絵図と同じく大型の石を水平に敷きならべた米蔵の基礎と長庇の柱跡が確認されました。瓦が出土しており、現存する橋津藩倉のような、瓦葺・土蔵造であったと思われます。実際に検出された遺構をもとに平面復元表示しています。この上に立って米蔵の大きさを実感してください。

斗場(はかりば)：計家。年貢米を計量したり、品質をチェックする所。蔵に確実に納めるまでを監視するため、米蔵が見渡せる場所に建てられています。



「米子御城平面図」(米子市立山陰歴史館蔵)江戸末期に描かれた米蔵

所在地



発掘調査で確認された米蔵基礎

英訳



橋津藩倉  
(鳥取県東伯郡湯梨浜町・湯梨浜町教育委員会提供)

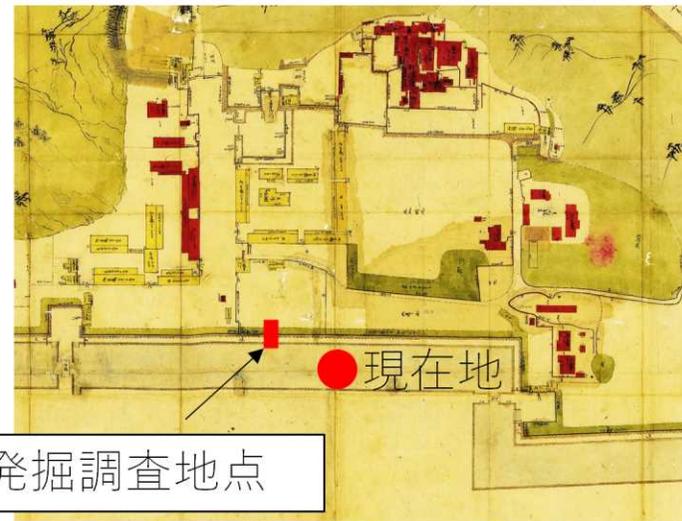
## 内堀（平面復元表示） 英訳

米子城には中海の水を引き込んだ、内堀と外堀の二つの水堀がありました。内堀は内膳丸北側の三の丸から飯山、深浦郭をめぐる堀で、城内と城下町を区画するものです。内堀には、表御門と裏御門の2か所に橋がかけてられていました。この内堀は表御門付近で幅16間半（約33m）あり、中海との開口部には船溜まりが設けられていました。

令和元年（2019年）の発掘調査では、三の丸側の内堀石垣が確認されました。詳細な絵図によると内堀石垣は二段になっており、その実際の大きさ等を実感してもらうために平面復元表示をしております。



発掘調査で確認された内堀石垣



発掘調査地点

英訳

大手御門～裏御門付近の内堀  
 (『米子御城平面図』江戸末期  
 米子市立山陰歴史館蔵)